

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300651		
法人名	医療法人社団 青藍会		
事業所名	ハートホーム山口グループホーム		
所在地	山口県山口市吉敷中東1丁目1番2号		
自己評価作成日	平成26年6月1日	評価結果市町受理日	平成26年11月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は医療機関併設のため、緊急時にすぐ医療サービスを受けることが出来るため安心して過ごしていただけます。また、当方人では利用者様ひとりひとりのご希望や体の状態に応じた支援を行うことで、日々の生活を自分らしく楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいます。各々の利用者様の要望に応じて、外出、買い物やボランティア活動など地域の方々との交流にも積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりがそれぞれの目標(ひもときシート、歌体操、園芸療法、洗濯方法の改善、業務に必要なパソコン技術を身につける、緊急時の対応と方法を身につける、拘縮予防のマッサージに取り組む、感染症予防(食中毒)などを設定され、その成果を運営推進会議や全体ミーティングなどで発表する機会を提供され、仕事に対する向上心や達成感につながっております。事業所は医療機関併設の複合施設の中にあり、協力医療機関の医師、看護師、薬剤師、理学療法士などの他職種との連携が図っており、日々の健康管理や緊急時、重度化、終末期への対応など、利用者、家族の信頼感、安心感につながっています。毎月開催される家族交流会は音楽会、茶話会、クリスマス会、新年会、戸外に出かけるショッピング、外食などバラエティーに富んだ内容で、利用者職員、家族とのつながりが深くなり、信頼関係が築かれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で 日々の生活を、自分らしく、楽しくそして、ともに過ごしていく」という理念があるが、特に「ともに過ごす」ことを常に念頭においてケアを実践している。理念は新入職員研修でも取り上げている。	「住み慣れた地域の中で 日々の生活を、自分らしく、楽しくそして、ともに過ごしていく」と事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、ミーティングで話し合っ共有し、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に、地域の方(自治会長や民生委員)に参加いただいている。それ以外にも、地域の方にボランティアとしてレクリエーションに参加していただくなどしている。	毎日の散歩や隣接の保育園児との交流、毎月来訪している歌や絵手紙のボランティアとの交流、中学生の職場体験、小学生の施設内見学など交流している。年1回の法人の納涼祭に500名近い参加があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めていただくため、運営推進会議などで勉強会を開催したり、日ごろのグループホームでの取り組みを紹介したりしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価意義自体が日常のケアに定着している。また、グループホームに求められるものを考える機会にもなるため、新人職員の研修の場にもなっている。	自己評価は年間を通してミーティングで話し合い、常勤職員が中心となってまとめている。評価を通して、緊急時への対応、サービスの質の向上(新人職員プログラム)の改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回テーマを替えてサービス向上につながるよう努力している。	2ヶ月に1回、開催し、利用者の状況、外部評価結果など報告している。毎回テーマを決めて職員が交代でミニ講座を行っている。認知症予防や認知症を地域で支える意識づけなど話し合い、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新申請、事故報告、運営推進会議への案内などを通して連携を図っている。	市の担当課とは介護保険の更新、事故報告、運営推進会議の案内など直接出向いて手渡しし、事業所の実情やサービスの取り組みなど報告するなど日頃から連絡を密に取っており、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の機会を設け、身体拘束をしないケアの基本的な考え方を徹底するようにしている。	マニュアルがあり、法人の身体拘束委員会に参加し、職員は理解している。職員は年2回虐待、身体拘束チェック表を活用して、自己点検を行い、全体ミーティングでも話し合っている。玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学ぶことはもちろんだが、日ごろから自分たちのケアを客観的に見つめなおすことが出来るよう話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないため、知識のみだが、理解につとめている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず個別に面談を行い十分な説明をして納得していただくようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に文書と口頭で説明し、また相談窓口の案内を玄関にも掲示している。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に文書と口頭で説明している。相談窓口の案内を玄関に掲示し、第三者委員を設置している。毎月の家族交流会で利用者、家族の意見を聞く機会を設けているが運営に反映させるまでの意見は出てない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどの機会を利用して、意見交換をしている。	月1回のグループホームミーティングや申し送りノートを活用して、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は、年2回の個人面談をしている他、日常業務の中で職員から意見を聞いている。職員から、洗濯方法の手順統一、移動介助の方法、タオル購入、業務の確認などの提案があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働者が働きやすい環境となるよう、教育体制や福利厚生にも力を入れている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体の研修だけでなく、それぞれの職員は半年ごとに個人の目標を定めた取り組みを実施し、仕事に対して向上心を高め、達成感を持つことができるようつとめている。	外部研修は段階に応じて、参加の機会を提供している。職員は毎月ある法人研修に参加している。内部研修は、テーマ別に(介護技術一着脱介助・入浴介助・清拭方法・排泄介助・食事介助、移動介助、虐待防止等)を実施している。医療安全、感染対策、褥瘡、身体拘束委員会の4部門の委員会に職員は所属し、テーマに沿って研究発表を行い、職員で共有している。半年毎に個人目標を定め、運営推進会議やミーティング時に発表しているなど、自己研鑽に努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会などを通して、他のグループホームと交流する機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人はもちろん、ご家族や今までにかかわりのあった介護職・医療職の方からも情報収集して、本人が安心できる関係を作るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、ご家族と十分な面談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば、制度の許す限りのサービスが利用できるよう工夫している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のさまざまな面で、今までの生活暦が活かされるような働きかけをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会での講師をお願いするなど、グループホームの活動に参加していただくことで、ともに本人をささえる関係づくりをしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院やスーパーに職員と一緒に رفتり、ご家族をお願いして定期的に親戚宅を訪問していただいたりしている。	馴染みの美容院の利用や、知人や友人の来訪がある他、法人のデイサービス利用者との面会、家族の協力で墓参り、外出、外泊、親戚訪問など人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係作りが難しい利用者の方には、職員が間に入ることでよい関係が出来るよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居された方を見舞ったり、死亡された利用者様のご家族に、他の利用者様が書いた季節の絵手紙を出すなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、ご家族や本人と面談して思いを把握できる機会を設けている。	アセスメントは家族からの情報や生活歴を電子カルテの基礎情報に保存し、家族交流会時にも希望を聞いている。日常の関わりの中で、経時記録に日々の利用者の生活や行動、本人の発した言葉を記録し、その中から思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は、ひもときシートを活用して検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時だけでなく、さまざまな場面で本人や家族から得た情報を職員全体で把握できるように基礎情報は半年に1度見直すようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り以外にも、毎月のカンファレンスで職員全体で話し合っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、出来るだけ本人や家族の意向を反映できるように作成している。	本人、家族、主治医、薬剤師、看護師の意見を参考に毎月のカンファレンスで計画作成担当者、利用者担当職員を中心にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、半年毎の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の様式を工夫して、日々の様子がわかりやすくプラン作成の判断材料になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の日課にとらわれず、自由に動くことが出来るよう日ごろから職員の意識作りをしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者にあった暮らしが出来るよう努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望する医療が受けられるよう、事前に確認している。	利用者、家族の同意を得て、協力医療機関がかかりつけ医となっている。月3回の訪問診療、毎週1回の看護師による健康チェック、毎朝看護師に健康状態を報告するなど24時間365日体制で適切な医療が受けられるように支援している。他科受診は家族の協力で受診支援をしている。希望により歯科医の訪問診療を受けている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に、毎朝健康状態を報告している。看護師は週に1度はグループホームに訪問して直接入居者の状態を確認し、必要であれば医師に報告したりグループホーム職員に注意事項などを伝えるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の状態がわかるよう病院関係者に十分な情報提供を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議などで、看取りについて取り上げたり、事例を報告して家族にグループホームでの看取りの考え方を理解していただくようにしている。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を本人、家族に説明している。重度化した場合は早い段階から家族、かかりつけ医、関係者と話し合い方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月、事故報告やヒヤリハットについて、再発防止策を検討している。また、職員研修で緊急時の対応(AEDの使用方法等)にも取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリハット報告書については発生の都度、発見者が報告書に記録し、管理者が確認している。その後、ミーティングや申し送りで話し合い、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。年1回、法人の管理者ミーティングで分析、検討している。緊急時の対応についての勉強会を内部研修で実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員のミーティング時に初期消火訓練を実施したり、消防機器について再確認するようにしている。運営推進会議などで、地域との協力体制作りも行っている。	年2回法人全体で防災訓練(避難訓練、消火訓練、通報訓練)を行っている。ミーティングや申し送り時に初期消火訓練を実施し、消火器の使用法、設置場所など話し合っている。今年度災害対策マップづくりの作成中で運営推進会議で地域との協力体制について話し合いを行っている。	・事業所独自の夜間想定を含めた避難訓練の実施 ・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修で、プライバシーについて取り上げ職員全体の意識向上に取り組んでいる。	法人研修やミーティングで一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけについて研修で学び、職員は理解して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。事業所内で定期的に接遇目標を掲げ、ミニ研修を実施し、不適切な対応がないか、職員同士で確認している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活はもちろんだが、ケアプランの中でも、自立支援できるような取り組みを盛り込んでいる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランでの個別ケア以外にも、各職員が担当を決めて、利用者の希望に沿った暮らしが実現するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者はボランティアの美容師に髪を染めてもらったり、職員とマニキュアを塗ったりしておしゃれを楽しんでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方の好みや、なじみの食事を取り入れた食事会などを定期的実施している。	三食とも法人からの配食で、利用者と職員と一緒にトレイ拭き、お茶汲み、テーブル拭き、食器洗いを行っている。日曜日には、利用者と一緒に食材の買い出しに行き、おやつづくり(寒天、パンケーキ、お汁粉等)を楽しんでいる。他にも、季節に応じた行事食(おせち、クリスマス、バイキング等)や家族交流会での野外食など、食べる楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事は栄養師がカロリー計算している。水分も、一人ひとりが十分摂取できるようタイミングや嗜好を考えながら提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケア以外にも、週に2度曜日を決めて義歯を薬剤で洗浄している。希望者は歯科衛生士の口腔ケアも受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせたケアを実施している。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげない声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給を行うよう工夫すると共に、状態に応じて医師・看護師とも相談し緩下剤を細かく調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日以外は毎日、利用者の状況に応じていつでも入浴できる。	入浴は日曜日以外は毎日入れるようにしており、午前10時から11時まで、午後は14時から16時までの間に、利用者の希望や体調に合わせて支援している。利用者の状態により足浴、シャワー浴、清拭などにも対応している。入浴したくない利用者には声かけの工夫をして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じた支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助する職員がその都度、薬の目的・用法・用量をすぐに確認できるよう、記録ファイルに薬情シートを挟んでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様の「できること」「やりたいこと」に着目してケアプランに反映し、実践できるようにしている。	習字、絵手紙、大正琴、キーボードを弾く、歌を歌う、脳トレ(計算、漢字)、カルタ、パズル(日本地図)、風船バレー、歌体操、嚙下体操、生け花、ぬり絵(マンダラカラーヒーリング)、ちぎり絵、編み物、雑巾縫い、水遣り、洗濯物たたみなど、一人ひとりのしたいこと、好きなことをみつけ、日々の生活の張り合いとなるような場面作りをしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候面や、感染症防止で外出できないこともあるが、出来るだけ本人の希望に沿うことが出来るように工夫している。	近隣の散歩(リハビリロード)やスーパーへの買い物、花見(桜、つつじ、菖蒲、もみじ)、りんご狩り、ドライブでは、外出プラン(自宅等)など、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は、自分で金銭管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族に手紙を出すことができるよう、絵手紙の作品を利用したり職員と一緒に手紙を書いたりして支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、危険物が無い様、整理整頓すると共に利用者の方と一緒に季節を感じることもできる飾りを作成して装飾してある。	共用空間は明るく、テレビ、机、椅子、ソファを配置し、机に季節の花を飾り、廊下には利用者と職員と一緒につくった季節に合わせた貼り絵、習字、写真が飾ってあり、生活感や季節感をとり入れて、居心地良く過ごせるように工夫している。廊下にベンチやソファを置いて一人ひとりの居場所づくりの工夫をしている	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内の廊下や談話室のあちこちに、ベンチやソファが設置してあり、ゆっくりと腰掛けて過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の物は、ご家族に依頼して出来るだけなじみのある物を使用している。そのほかにも、ご家族との写真やはがきを飾り本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	ダンスやテレビ、テーブル、椅子、時計など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真やぬいぐるみ、花を飾って居心地よく過ごせるに工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が支援することで洗濯・調理・園芸・掃除など、自分で出来ることを増やす取り組みをしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 ハートホーム山口グループホーム

作成日: 平成 26年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時対応の勉強会は実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	研修の内容をより具体的にすると同時に、職員のスキルが確認できるよう、勉強会で進捗を管理する。※今年度は緊急時の報告手順、対応をみにつける。	勉強会に進捗を職員に確認し、事業所長にて試験を導入し、能力を確認する。	0.5年
2	36	防災訓練の内容について、実際の夜間時の火災等発生を想定して、職員の対応、応援体制、地域の協力体制等について、訓練を通じて確認を行う必要がある。単に事業所内訓練にするのではなく、地域の協力等を含めて訓練を行う。	防災訓練について、地域住民、消防団等を交えて1回訓練を行う。	年度内に訓練を実施する。	0.5年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。